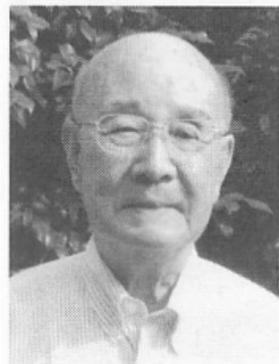


宮城県の子宮がん検診の精度管理に貢献

2019年9月1日発行

対がん協会報第679号4面より許可を得て転載。

矢嶋 聰(やじま・あきら)82歳 杜の都産業保健会一番町健診クリニック



1962年に東北大学医学部を卒業後、同年から宮城県で始まった子宮頸がん集団検診に、当時東北

大医学部産婦人科で検診のリーダー役だった九嶋勝司氏、野田起一郎氏の指導のもとでかかわるようになり、車検診による婦人科検診の基礎を築いた。標準的な子宮頸がんの検診方式が確立される過程で先駆的な役割も果たした。

70年に東北大学医学部産婦人科助

手になって以来、同大産婦人科講座で婦人科がんなどの手術治療や婦人科がんの発生過程の研究に従事。79年に講師、81年に助教授、85年に教授に就任、2000年の退官後は06年まではNTT東日本東北病院院長を務めた。

この間、73年に宮城県対がん協会の婦人科検診診断委員会委員に就任以来、同協会の子宮がん検診の診断法の指導などを通し、子宮がん検診の精度管理に寄与した。発生の過程で細胞を見て、その後悪性化するかどうかを見極める研究を続けてきたことから、「子

宮頸がんは、前がん病変で発見できれば、がん化を防げる病気」と強調する。

88年から06年までは同協会の副会長を、89年からは宮城県成人病検診管理指導協議会委員などを歴任し、宮城県全般のがん対策に貢献した。日本産科婦人科学会の理事も長年務め、子宮頸がんや子宮体がんの検診精度の管理や早期診断法に関する研究に尽力した。

07年からは杜の都産業保健会一番町健診クリニックに勤務し、82歳となった今も細胞診にかかわり続けている。